



笛吹市

議会だより

平成18年11月20日発行

2006

Vol.8

アンケート用ハガキが、本誌の中に折り込まれています。
ぜひ、ご記入しお送りいただけますよう、お願いします。

GIKAI DAYORI

笛吹市役所に聞いてみました。
NHK大河ドラマ「風林火山」が放映されます
笛吹市にも多くの観光客が訪れるのでは？



大蔵経寺(石和町)

甲斐国守護職武田信成が
伽藍を修造したと伝えられる



FUEFUKI CITY



笛吹市

議会だより

2006 Vol.8

表紙 1

あんない・会期日程 2

荻野市長・行政報告 3

9月定例議会で決まったこと 4 ~ 7

臨時議会 8 ~ 9

会派代表質問(6会派) 10 ~ 15
 正鶴会 清新会 新和会 公明党
 日本共産党笛吹市議団 笛政クラブ

一般質問(8議員) 16 ~ 21
 大久保俊雄議員 中川 秀哉議員 渡辺 正秀議員
 前田 初男議員 山本 富貴議員 前島 敏彦議員
 井上 一己議員 新田 治江議員

委員会レポート 22 ~ 23

笛吹市役所に聞いてみました/編集コラム・笛吹川 24

あんない CONTENTS



FUEFUKI CITY

議長提案による、笛吹市議会の改革を目指して!

議会改革検討委員会設置

笛吹市が発足し、二年が経ちました。市議会議員は、合併前より議員定数について特例は設けず、一般選挙で現在の三〇人が選ばれました。しかし、昨今の経済情勢は逼迫状況にあり、行政改革をさらに進めなくてはなりません。

議会としても効率良い議会運営を行なうため、議長提案により、議会改革検討委員会が設立されました。委員会メンバーは、正副議長ならびに会派代表者、常任委員会委員長、議会運営委員会委員長の二名。今後は議員定数や、議会運営に関する課題を、委員会において審議していきます。

市長の掲げる市民第一主義を基本に、市議会も市民に密着した議会を目指し、まい進してまいります。

砂原橋期成同盟会設立

砂原橋は笛吹川に架かる、石和町砂原地区と、八代町増田地区を結ぶ橋で、現在は仮設的な狭小な橋です。

合併前より旧八代町・石和町が、その必要性を山梨県知事などに訴えるなど行動を起こしてきましたが「一級河川・笛吹川」は国の直轄河川であるため、なかなか要望活動が実らないまま、今日までできています。

笛吹市内を結ぶ橋は現在六本架かっており、砂原橋以外は、全て車のすれ違いが可能です。しかし、砂原橋は狭く、昔から喧嘩橋とも呼ばれるほどで、とても通行には不都合な橋です。

平成二十二年には、富士河口湖町と笛吹市を結ぶ若彦トンネルが開通し、観光の面においても、この砂原橋が重要になってきます。

笛吹市として、この砂原橋の架け替えは必要であるとの認識から、市議会を始め各種団体にも働きかけ、期成同盟会が設立されました。今後は、県や国に強く要望活動を行い、早期実現を目指します。

9月議会・会期日程

- 9月7日(木) 全員協議会 開会
- ・ 本会議
- ・ 会議録署名議員の指名
- ・ 会期の決定
- ・ 提出議案の説明
- ・ 総括質疑・付託
- ・ 討論・採決
- 9月11日(月)
- ・ 本会議会派代表質問
- 9月12日(火)
- ・ 本会議一般質問
- 9月14日(木) ~ 15日(金)
- ・ 各常任委員会付託案件・事件審査
- 9月21日(木) ~ 22日(金)
- ・ 各常任委員会
- 9月25日(月) ~ 26日(火)
- ・ 各常任委員会
- 9月29日(金)
- ・ 本会議
- ・ 各委員会審査報告
- ・ 質疑・討論・採決
- 閉会

荻野市長の行政報告

魅力ある「新笛吹市」めざして 総合計画の策定へ

秋篠宮家の男子ご誕生を心からお祝い申し上げます。
小泉首相が強い信念で取り組んできた改革は評価できるが、三位一体改革による交付税の削減など、地方に厳しい内容でもあった。
笛吹市においては、はじめての施策・事業を実施した十七年度の決算がまとまった。一般会計の歳出は二六七億一、八〇〇万円、市民一人当たりの歳出は三七万円、実質収支は一二億五〇〇万円、経常収支比率も八二・六％でほぼ健全な財政運営が図られた。
今後とも財政の健全化を図り、一般財源の確保に一層努めると共に、歳出面では費用対効果を見極めつつ、計画的な事業を行っていく。

市政当面の課題と報告

総合計画の策定

芦川村と合併し、新笛吹市の総合計画策定に入り、十九年度に基本構想・基本計画・実施計画の策定を行う。

事務事業の評価

四月から市の事務・事業の効果や、達成度を客観的に評価するための研修を重ねている。十九年度に継続し、次年度の市政に反映させたい。

指定管理者制度の導入

前年度に続き、十八年度は新

たに一五施設への導入作業を進めている。導入済みの施設の運営のチェック体制を整備している。

防災対策

合併後初の市一斉総合防災訓練を実施した。来年は明治の大水害から百年の節目にあたるので、過去の災害を記録誌として作成し、その教訓を防災対策に役立てていきたい。

障害者福祉

十月の障害者自立支援法実施に向けた準備は最終段階で、審査判定、「地域生活支援事業」

の準備が順調に進んでいる。旧石和保健所には保健・福祉関係四団体が入居し、福祉の拠点として活発に活動している。

児童館の整備

御坂・富士見地区に建設検討委員会を設け、御坂地区は旧御坂支所跡地に児童保育併設の児童センターを建設する方向、富士見地区も関係者の意見を聞き検討していく。

子育て支援センターの設置

今年度一宮YLO会館に建設し、十月一日の開所を目指し準備中。

保育所への指定管理者制度の導入

石和第三保育所は、保護者の合意が得られ、十九年四月までに指定管理者と十分事前協議し、十九年四月の導入を図る。

敬老祝金

見直しを行い、県の基準と同様に七七歳、八八歳および百歳以上の方に支給することとした。

特定高齢者の運動機能、栄養改善、口腔機能向上事業

基本健診のデータから対象者

を把握し、十月から実施。要支援、要介護状態にならないよう生活機能の維持改善に努める

健康づくり

九月から「シルバー体操指導員」の養成、「温泉活用健康づくり事業」を実施。

観光振興

笛吹市夏祭りは観光客が増加、各地域の夏祭りも御坂、八代、境川地区で復活。花火会場には今年度中に二、九〇〇席の観覧席を整備する予定。

生涯学習

夏休み中の小学校高学年のジュニアリーダー研修会実施。子供クラブ球技大会開催。

文化振興

春日居郷土館で交響詩・絵画展、「わが町の八月十五日展」「戦争と笛吹市」「語り部」の会を開催した。

市立図書館

子供対象の「夏休みスタンプラリー」を初めて実施。約八〇人が参加した。

九月定例会における荻野市長の行政報告を要約したものです。



シルバー体操指導員養成講座

17年度の決算を審査・認定

平成十八年第三回笛吹市議会定例会は、九月七日から二十九日までの二十三日間の日程で開催され、専決承認一七件、条例制定一件、条例改正五件、平成十七年度一般会計ほか特別会計一三件（芦川村決算を含む）、補正予算一八件、市道認定一件、規約改正等三件が提出され、承認案件を除く全ての案件が各常任委員会に付託され審議のうえ、認定、可決しました。

また、最終日には、人権擁護委員の推薦、笛吹市教育委員の選任ほか二件、議員発議による意見書の提出が追加提案され、同意、可決しました。

おもな提出議案と審議の結果

条例制定

笛吹市ふれあいの家条例
旧石和保健所を、市の福祉活動の拠点として使用するため、条例を制定するものです。
賛成全員で可決

条例改正

政治倫理の確立のための笛吹市長の資産等の公開に関する条例の一部改正
会社法が本年五月一日から施行されたことに伴い改正するものです。
賛成全員で可決

負担割合（所得一四五万円以上の人）

改正前 十分の一
改正後 十分の三

・ 出産育児一時金の支給額

改正前 三三二万円
改正後 三三三万円

反対討論および賛成討論がありました。賛成多数で可決

笛吹市保育所条例の一部改正
指定管理者制度の導入に伴い、設置管理条例の一部を改正する必要があります。改正するものです。

反対討論および賛成討論がありました。賛成多数で可決

笛吹市土地利用条例の一部改正
八月一日の芦川村との合併に伴い、委員の定数を増員する必要があるため、改正するものです。

賛成全員で可決
笛吹市議会委員会条例の一部改正

芦川村の合併により、東八消防本部が笛吹市消防本部となつたため、所管委員会を決めるものです。

賛成全員で可決

賛成全員で可決

賛成全員で可決

賛成全員で可決

賛成全員で可決

賛成全員で可決

賛成全員で可決

一般会計 補正
13億6606万円を増額補正
平成十八年度一般会計補正予算ほか一七件の補正予算が提出されました。

補正予算
賛成多数で可決
笛吹市国民健康保険特別会計
補正予算
賛成多数で可決
笛吹市介護保険特別会計補正予算・笛吹市介護サービス特別会計補正予算・笛吹市公共下水道特別会計補正予算・笛吹市農業集落排水特別会計補正予算・笛吹市簡易水道特別会計補正予算・笛吹市温泉事業特別会計補正予算・笛吹市恩賜県有財産保護財産区管理会特別会計補正予算（黒駒山）
賛成多数で可決

大積寺山・稲山・大口山・崩山・名所山・春日山・兜山外五山）・笛吹市水道事業会計補正予算
以上、一六件の補正予算については、賛成全員で可決

決算認定
平成十七年度笛吹市一般会計歳入歳出決算ほか二件の決算が提出され、各常任委員会で慎重審議の結果、本会議で認定しました。
笛吹市一般会計決算・笛吹市国民健康保険特別会計決算・笛吹市公共下水道特別会計決算
賛成多数で認定

反対討論および賛成討論がありました。賛成多数で認定
笛吹市老人保健特別会計決算・笛吹市介護保険特別会計決算
賛成多数で認定
笛吹市簡易水道特別会計決算ほか二件の決算は、賛成全員で認定しました。
(決算内容は六・七ページに掲載)



建替が決まった一宮西小体育館



9月定例議会で 決ま

市道認定

一路線について賛成全員で可決しました。

・市道石和567号
(石和町河内地内)

規約変更

芦川村を笛吹市に合併編入したことに伴う山梨県市町村自治センターを組織する地方公共団体の数の減少について

芦川村を笛吹市に編入したと、東八代広域行政事務組合が消防に関する事務の共同処理を廃止したこと及び消防組織法の一部を改正する法律が施行されたことに伴う山梨県市町村総合事務組合の規約の変更について

芦川村を笛吹市に編入した事に伴う山梨県市町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更について

賛成全員で可決

人事

監査委員に向山秀男氏
教育委員に芦原正純氏



向山秀男氏

金井代表監査委員の辞任に伴う監査委員、十一月二十二日任期満了に伴う教育委員、任期満了に伴う人権擁護委員の人事案件が提出され、それぞれ賛成全員で同意しました。

監査委員

住 所 笛吹市一宮町田中二五五番地

氏 名 向山 秀男(新任)

生年月日 昭和二十九年五月二十四日

教育委員

住 所 笛吹市一宮町東原九一番地

氏 名 芦原 正純(再任)

生年月日 昭和十一年五月一日

人権擁護委員

住 所 笛吹市石和町松本五〇四番地

氏 名 岩野 秀夫(再任)

生年月日 昭和十九年八月二十九日

住 所 笛吹市石和町下平井二三五番地

氏 名 神宮司由則(再任)

生年月日 昭和二十四年七月九日

住 所 笛吹市御坂町成田四五八番地

氏 名 角田暁子(新任)

生年月日 昭和十七年七月二十一日

意見書

道路特定財源確保に関する意見書

政府は、道路特定財源の暫定税率を確保したままの一般財源化を目指しています。道路特定財源は、道路整備等に当てるため、揮発油税がその財源として

賛成多数で可決

承認

笛吹市芦川地区過疎地域活性化基金条例の専決処分ほか十六件の承認

八月一日、旧芦川村との合併に伴う改正等の専決処分が報告されました。
賛成全員で承認

17年度 決算 審査意見書

代表監査委員
金井 豊明

一般会計

笛吹市誕生後初めての通年決算である。予算が効率的に執行されているかに重点を置いて審査した。

・前年度指摘した点のうち、繰越事業は最小限に抑えられ、努力が認められる。市税などの滞納整理のため収税課の設置などの取り組みは評価する。
・十七年度の成果報告は職員が努力が現れており、耐震診断および改修費の補助、不登校児童の指導などに成果が上がっている。これからの課題として、
予算の適正な積算
多額な不用額や、予算の原形をとどめないような補正予算も見受けられる。予算編成は事業目的に即した厳正な積算が必要である。

市税等の徴収率向上
収入未済額が三四億円に達している。現状を受け止め、財源確保に一層の努力を望む。
補助金の実績精査と交付制度の構築
補助金交付団体へ補助金は、その効果、活動内容や実績報告を精査し、通年行っている事業であつても、成果の上がないものへの交付金は見直すと共に、偏りのない交付制度の構築を願う。

国保会計

徴収率が七一・八%と低く、健全運営のため滞納縮減と、健康づくり事業の展開を望む。

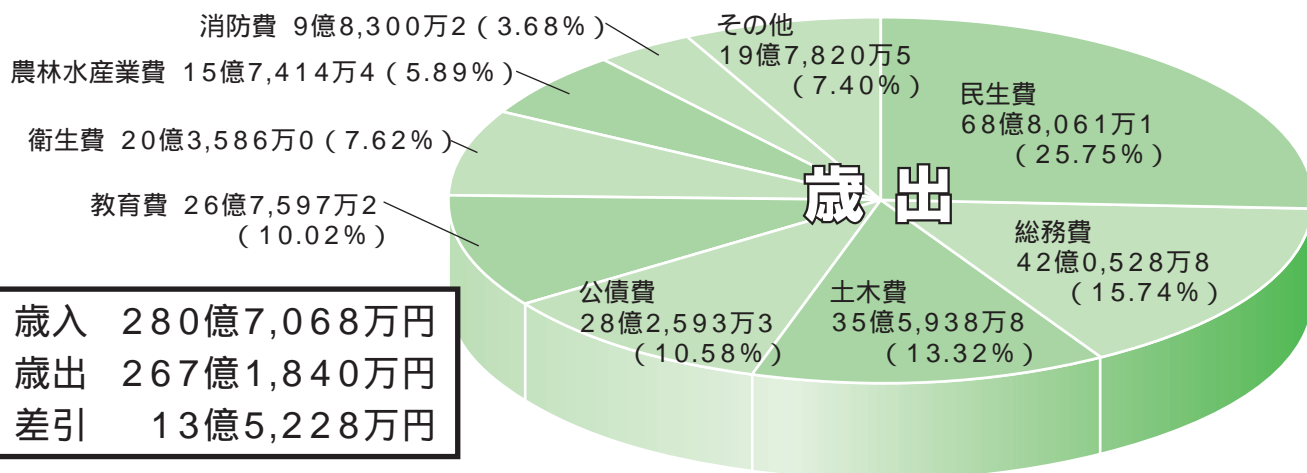
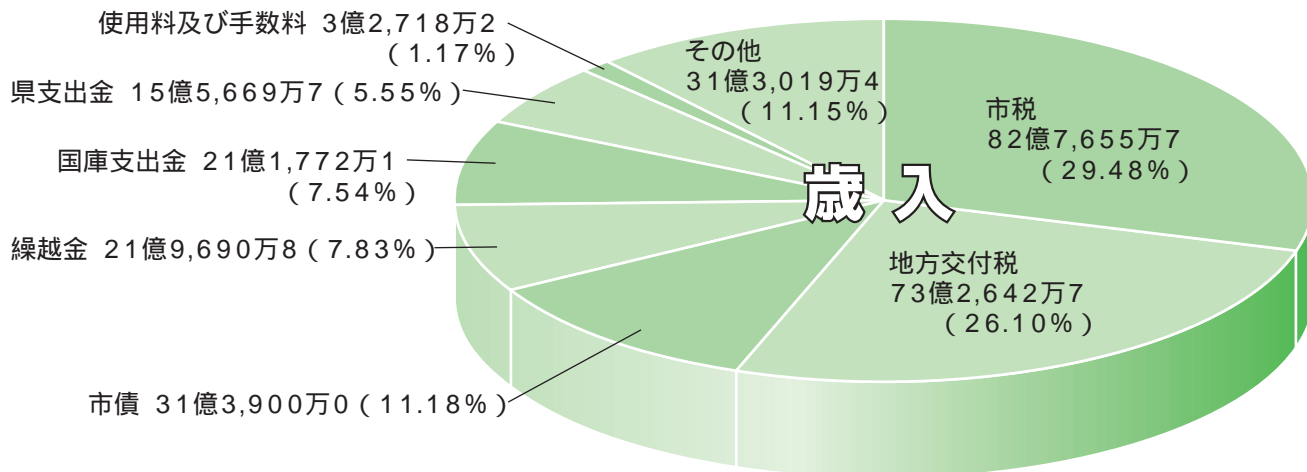
下水道会計

依存財源が八割を占めており、今後国の補助金削減や起債の増加が予測される。市の財政計画との整合性を保ちつつ、効率的な整備を進めてほしい。加入促進にも更なる努力を要望する。

平成17年度（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

市の予算はこう使われました！

一般会計の支出 **267億1,840万円**



歳入	280億7,068万円
歳出	267億1,840万円
差引	13億5,228万円

市民1人あたりこのように使われました。

<p>民生費</p> <p>96,482円</p>	<p>総務費・議会費</p> <p>73,705円</p>	<p>土木・災害復旧費</p> <p>50,083円</p>	<p>公債費</p> <p>39,626円</p>
<p>教育費</p> <p>37,523円</p>	<p>衛生費</p> <p>36,996円</p>	<p>農林水産・労働・商工</p> <p>26,455円</p>	<p>消防費</p> <p>13,784円</p>

1人当たりの起債（借入金）残高

一般会計	425,662円	水道事業会計	69,177円
下水道事業会計	345,396円	簡易水道事業会計	42,131円

（平成18年3月31日現在）

平成17年度 特別会計の決算

国民健康保険会計		老人保健会計	
おもな歳入	おもな歳出	おもな歳入	おもな歳出
国庫支出金 24億8,530万8	保険給付費 44億9,923万3	支払基金交付金 35億1,659万5	医療諸費 60億4,687万8
保険税 23億5,635万6	老人保険拠出金 14億5,214万6	国庫支出金 17億6,575万7	諸支出金 1億7,995万9
療養給付交付金 5億2,162万6	その他 8億5,445万4	県支出金 4億4,084万2	総務費 2,664万3
その他 15億2,668万5		その他 5億3,184万7	
総額 68億9,997万5	総額 68億0,583万3	総額 62億5,504万1	総額 62億5,348万0

介護保険会計		下水道会計	
おもな歳入	おもな歳出	おもな歳入	おもな歳出
介護保険料 5億1,591万8	保険給付費 34億3,531万0	繰入金 17億2,143万4	下水道事業費 20億5,386万6
国庫支出金 9億2,050万2	総務費 1億5,119万0	市債 12億2,530万0	公債費 17億6,933万2
支払基金交付金 11億3,109万8	その他 8,995万8	使用料及び手数料 3億9,301万6	総務費 1億4,483万6
繰入金 5億8,986万5		国庫支出金 3億8,459万8	
その他 5億7,104万7			
総額 37億2,843万0	総額 36億7,645万8	総額 40億9,299万0	総額 39億6,803万4

簡易水道会計		水道事業会計（収益勘定）	
おもな歳入	おもな歳出	おもな歳入	おもな歳出
使用料及び手数料 2億6,304万7	水道費 6億0,439万8	給水収益 6億6,602万4	源水及び浄水費 1億2,413万1
繰入金 1億7,366万6	公債費 1億9,259万0	受託工事収益 1億1,757万3	配水及び給水費 1億0,410万5
市債 3億3,340万0	総務費 8,091万8	繰入金 1億1,422万5	減価償却費 2億5,325万0
国庫支出金 8,312万5	その他 2,776万8	その他 2,131万6	支払利息 1億6,665万8
その他 1億0,986万0			その他 2億4,324万9
総額 9億6,309万8	総額 9億0,567万4	総額 9億1,913万8	総額 8億6,148万9

水道事業会計（資本勘定）		温泉事業会計	
おもな歳入	おもな歳出	おもな歳入	おもな歳出
企業債 5億1,240万0	水道建設費 2億1,241万0	使用料及び手数料 7,029万1	総務管理費 6,706万8
出資金 2億7,486万3	第2次拡張費 3億0,794万6	その他 802万9	
留保資金外 6億4,212万4	企業再返還金 1億9,081万7		
工事負担金 5,578万3	その他 1,702万6		
加入金 4,302万9			
総額 15億2,819万9	総額 15億2,819万9	総額 7,832万0	総額 6,706万8

黒駒山外8恩賜県有財産保護財産区管理会特別会計歳入歳出決算	
歳入	歳出
3,881万2	589万5

芦川村一般会計決算

歳入 9億4,040万円
 歳出 8億9,152万円
 差引 4,888万円

特別会計は略

平成十七年度の芦川村の決算認定審査を、九月二十六日に行いました。

本来芦川村の決算については、芦川村議会においてその認定を行うべきですが、今年八月一日に笛吹市と合併し、議会に付す時間がなかったため、合併の申し送り、笛吹市に引き継がれました。

決算委員会では、予算の執行が適正に行われているか、また新市に引き継がれた特色ある事業内容など、総合的なものにとどめ審査しました。

なお、決算の監査については、すでに意見書を付し芦川村長に提出されていきました。

芦川村の決算

第5回 臨時会

11月13日

笛吹市第五回臨時議会は、十一月十三日に開催され、龍澤敦議長、山崎光世副議長の辞任に伴い、正副議長の選出を行いました。新しい議長に中村善次議員を、副議長に風間好美議員を選出しました。また、一般会計補正予算、同意、発議の各案件を審議し、原案どおり可決・同意されました。

議長に中村善次氏

副議長に風間好美氏を選出

誠心誠意努力を傾注

笛吹市議会議長

中村善次



このたびの臨時議会におきまして、議会議長を拝命することになりました。誠に身に余る光栄でありますとともに、その職責の重要性和、使命の重大さを痛感いたしているところであります。

もとより浅学非才、その器ではございませんが、皆様のご指導・鞭撻を賜りながら、全力で笛吹市のために、誠心誠意の努力を傾注してまいり所存です。

さて、本市も合併し、すでに二年が経過をいたしました。

この間、近隣町村でも合併が進み、いまや昔の面影は残っておりません。本市においても、八月一日に旧芦川村を迎え入れ、その規模も拡大をいたしました。

今後は、国の進める三位一体改革や、市の集中改革プランなど、行政改革を推し進め、直面する多くの課題に取り組んでいかなければなりません。行政と議会が一丸となり、市民ニーズに対応し、ふれあい文化都市の創造に取り組んでまいります。今後とも議会に對しまして、ご支援・ご協力賜りますようお願いを申し上げます。

市民の皆様のご健勝とご繁栄を祈念しつつ、ごあいさつとさせていただきます。



修理される消防はしご車

一般会計補正予算
今臨時会に提出された一般会計補正予算は、歳入歳出総額二七九億七、二二七万二千元です。補正内容は、消防はしご車が経年により修理を要するためのものです。
賛成全員で可決

活力ある都市づくりを

笛吹市議会議長

風間好美



平成十八年十一月第四回笛吹市議会臨時会におきまして、議員各位のご推挙をいただき、副議長に就任いたしました。まことに身に余る光栄であり、その責務の重さを痛感しております。

地方分権が進み、本市においても、行政改革は待ったなしの状況です。活力あるふれあい文化都市を目指すためにも、行政と議会の果たす役割は重要で、市民福祉・市政推進のために、副議長としての責務に全力を傾注する覚悟です。

市民の皆様のご支援・ご指導をいただきますようお願い申し上げます。就任のあいさついたします。

同意
欠員に伴う公平委員の選任同意案件が提出されました。
賛成全員で可決

氏名 神宮寺 勉(新任)
住所 笛吹市石和町松本三二八番地
生年月日 昭和四年三月二十
八日

議 発

飲酒運転 追放宣言

昨今頻発する飲酒運転による交通事故。被害にあわれた方々の悲しみは計りしれません。また、事故を起こしてしまった者は、取り返すことのできない過ちにさいなまされます。お酒は時として必要な場面もありますが、だからといって飲酒した後、車を運転することは絶対に許せるものではありません。これ以上、悲惨な事故・事件を起こさないために、笛吹市民の総意として、飲酒運転の追放をここに宣言するものです。

30人 3常任委員会 新しい議会がスタート!

議長 中村 善次

副議長 風間 好美

= 委員長 = 副委員長

総務常任委員会

堀内 文蔵	渡邊 清美	雨宮 四郎	石倉 泰明
井上 一已	上野 稔	新田 治江	前島 敏彦
前田 初男	山本 富貴		

教育厚生常任委員会

中川 稔夫	中川 秀哉	風間 好美	亀山 和子
志村 勢喜	杉岡喜美雄	中村 善次	野沢 勝利
日高せい子	山崎 光世		

建設経済常任委員会

小林 始	松沢 隆一	海野利比古	大久保俊雄
川村 恵子	寶 修	龍澤 敦	内藤 武寛
降矢 好文	渡辺 正秀		

議会運営委員会

降矢 好文	海野利比古
中川 稔夫	堀内 文蔵
井上 一已	小林 始
	内藤 武寛
	渡邊 清美

〓 委員長 〓 副委員長

議会広報編集委員会

山本 富貴	日高せい子
新田 治江	中川 秀哉
	大久保俊雄
	川村 恵子

リニア対策特別委員会

内藤 武寛	杉岡喜美雄
石倉 泰明	前島 敏彦
野沢 勝利	龍澤 敦
	前田 初男
	降矢 好文
	志村 勢喜

議会選出監査委員

龍澤 敦

組合議会議員

東八代広域行政事務組合議員	中川 善次	風間 好美	堀内 文蔵	中川 稔夫
杉岡喜美雄	亀山 和子	小林 始	中川 稔夫	山崎 光世
東山梨行政事務組合議員	中川 善次	山崎 光世		
東山梨環境衛生組合議会議員	中川 善次	風間 好美	中川 稔夫	山崎 光世
青木が原ごみ処理組合議員	中川 善次	風間 好美	中川 稔夫	山崎 光世
峡東地域広域水道企業団議員	中川 善次	風間 好美	中川 稔夫	山崎 光世
積迦堂遺跡博物館組合議会議員	渡辺 正秀	海野利比古	野沢 勝利	日高せい子
	中川 善次	風間 好美	野沢 勝利	日高せい子

代表質問

九月定例市議会では、六会派を代表して六人の議員が代表質問に立ち、二二項目について市当局の考えをただしました。以下の記事は代表質問と答弁を要約したものです。

正鶴会

- 降矢好文議員6
- 清新会 日高せい子議員7
- 新和会 内藤武寛議員8
- 公明党 渡邊清美議員9
- 日本共産党市議団 亀山和子議員 ...10
- 笛政クラブ 上野 稔議員 ...11



正鶴会

降矢好文 議員

問 今後の市財政計画を問う

降矢好文議員 国の骨太方針2006のもとで、笛吹市の今後の財政計画を伺う。市民一人当たりの借金の額は、下水道事業の借入金の見通しと計画終了までの年数は。国から自治体への税源移譲は小規模団体には不利だが、市の対応は。「収税課」設置の趣旨と、対策本部の概要は。市税の収納率は七七・六%だが、県内市町村との比較はどうか。

答

税収確保に
全庁体制で取り組み

荻野正直市長 市財政は補助金交付税の減少、市税収納率の低迷など厳しい財源を基金で賄い、歳出では扶助費等義務的経費が増えている。借金である市債は六四四億七千万円で、市民一人当たりでは八八万五千円だが、市債の約六割は交付税で補填される。貯金にあたる基金は九〇億六千万円である。

下水道事業は平成三十二年を

問

集中改革プラン2005の
進行状況はどうか

降矢好文議員 市の集中改革プランでは、二十一年度までに市税一億七千万円増収、事務事業の再編整理、職員八〇人削減、四七施設の指定管理導入などで、五年間に二五億五千万円の経費

答

改革プランは
着実に推進している

荻野市長 平成十七年度に着手した一八の改革のうち、「昇任・昇格試験の導入」、「落札価格の公表」、「市政クイックアンサー



市民の暮らしを守る消防

問

広域化する消防
行政への対応は

降矢好文議員 国は消防組織法を改正して、消防広域化の基本方針を定め、十九年度までに各県の推進計画を、二十四年度までに各市町村の計画を作成せよとしている。市の対応を聞きたい。

答 県の計画を見極めたい

荻野市長 三〇万人以下の市町村消防の広域化、消防力の強化を図るものであり、今後県が策定する推進計画を見極めていきたい。

問 教育委員会の権限一部移譲は

降矢議員 骨太の方針の中で、教育委員会の権限の一部を、首長に移譲する特区の実験的取り組みを進め、教育委員会制度の抜本的改革を目指すとしているが、市長の所見は。

答 権限移譲には成果も期待

荻野市長 全国市長会の政府への意見を踏まえたものと考えている。生涯学習、文化、スポーツなどの分野を、市の保健部局の健康づくりと一体的に取り組むことで、成果が期待できると思う。

問 芦川の学校存続と過疎対策は

降矢議員 合併後の芦川地域の小・中学校のあり方はどう考えているのか。また、旧芦川村の過疎地域指定はどうなるのか。

答 過疎指定は継続 芦川小・中は十九年度に結論

荻野市長 旧芦川村の過疎地域指定と過疎地域振興計画は、新市に引継がれる。



清新会

日高せい子 議員

問 景観行政にどう取り組む

日高せい子議員 景観緑三法が施行され、行政、事業者、住民それぞれ良好な環境形成のため責務を果たさなければならぬ。笛吹市は景観という分野から、まちづくりはどう取り組んでいくのか。

答 二地区で景観形成 地区計画推進

荻野市長 良好な景観形成のため地域で決めた地区計画が、市部通り線、駅前土地区画整理事業地の二カ所で、策定されており、事業を推進中である。また芦川地区の景観保全については、現在、芦川地域審議会で協議し

芦原正純教育長 合併協議では芦川村の小・中学校の存続問題は結論が出ず、市教委を中心に引き続き検討している。十九年度中に状況を精査して方針を定め、二十年度から実施したい。

ている。

問 環境行政の基本的な考えは

日高議員 温室効果ガスの増大による、地球温暖化を防ぐため、京都議定書が昨年二月に発効された。気温の上昇は将来農産物への被害も予想され、より責任ある自治体の施策が求められる。笛吹市の環境行政についての、基本的な考えを伺いたい。

答 「4R」を推進し バイオ燃料・太陽光発電などに補助

荻野市長 本市は基本計画で、

自然環境と共生した「やすらぎ」のある都市づくりを将来像としている。一般廃棄物処理施策は、「やつてみるじゃん! 53減量」をスローガンに、「リフューズ」(余分な包装を断る)、「リデュース」(長く使える製品購入)、「リユース」(再使用)、「リサイクル」(資源として再利用)の4R推進、環境教育の充実、広域処理等を基本方針として、今年度中に廃天ぶら油を原料にディゼル代替燃料を製造、ゴミ収集車や公用車に利用する計画である。住宅用太陽光発電への設置補助は申込みが満杯となり、今議会で補正をお願いした。市民・業者・行政の三者が協働して、環境問題に取り組む環境指導委員会を設置しており、今までの以上に循環型社会の形成に努めていきたい。

問 「住民との協働」 どうつくる

日高議員 施策の実現には、住民とのパートナーシップは不可



地区計画に基づき整備された市部通り

答 「自治基本条例」も検討

荻野市長 まちづくりは市民との協働がなければ困難である。「高齢者と子供の帰り道ふれあい事業」や、道路環境美化のための「アダプトプログラム事業」、福祉ボランティアなど、各分野で市民との協働を進めている。今後市民の意見や参画をいただき、住民と行政の協働を規定した、自治基本条例の制定も検討していきたい。

問 障害者の自立支援 に市の施策は

日高議員 十月から施行される障害者自立支援法には、根本的に疑問を感じる。障害が重くなるほど利用料が上がリ、障害者の生活にとっては厳しい内容だ。地域生活支援事業の内容と利用料は、自治体の判断で設定することになっているが、笛吹市の計画を伺いたい。

答 積極的に対応していく

荻野市長 新規事業には積極的に対応する。相談支援は社協を含む市内の民間事業所二カ所に委託し実施する。コミュニケーション支援は、手話通訳者十数人を組織し、社協に委託して実施したい。移動支援は支援員が介助、誘導と見守りをするガイドヘルプサービスと、車での移動を支援する移動サービスを実施する。山梨市、甲州市と連携して、サービス提供事業所に一時間あたり一、三五〇円の助成をする。精神支援センター「ふえふき」と、小規模作業所「さくらハウス」に支援していく。障害者本人の活動支援、ボランティア活動支援、福祉機器リサイクル、手話奉仕員養成研修等の事業も引き続き実施する。



新和会

内藤武寛 議員

問 市の歌、音頭の制定を

内藤武寛議員 合併二周年を迎えて、市民の融和と連帯感を醸成する方法として、市の歌と、盆踊りや祭りに唄える笛吹音頭の制定を考えてはどうか。また、全市民参加型のスポーツイベントを開催してはどうか。

答 有意義であり検討していく

荻野市長 市のシンボルとして市の木、花、鳥を選んだが、市の歌を作って合唱コンクールを開催したり、スポーツ大会の開催は有意義だと思う。市の歌、音頭の作成は今後の検討課題とさせていきたい。

問 市内幹線道路の整備は

内藤議員 若彦トンネルの進捗状況は、トンネルから石和・春日居温泉郷、環状線東部、甲府市小瀬への連結をどう考えるか。



着々と進む若彦路

第二農免道路（みやさか道）の境川・御坂地区、八代地区の進捗状況と今後の計画は。

中央道の側道を拡幅整備し、境川〜一宮間を直線で結び、市中央を南北に走る幹線市道として活用する考えは。

答 若彦トンネルは 二十二年度供用開始

荻野市長 若彦トンネル掘削は、河口湖工区一、四三五mが終了、芦川工区一、一六二mは今年度発注し二十年度完成、舗装設備工事は二十二年度完成、供用開始の予定である。環状道路東側区間は計画が六月に示され、おおむね三年後に測量設計着工となる。若彦トンネルから最短の接続は、石和地内の甲府笛吹線とのランプとなる。温泉郷との接続は今年十月に供用開始となる市道御坂13号線（直進道）の利用が最短である。

第二農免道路は東八中央地区

（境川町小黒坂、御坂町下黒駒六、五一五m）と、釈迦堂地区（一宮町市之蔵、千米寺二、五九四m）の二地区で、二十一年度が最終年度である。進捗状況は東八中央地区が八四・五％、釈迦堂地区が四一％である。このほか第二農免道の両区間を結び、同規格の幹線農道を整備している。これを含めると第二農免道路の全体計画は、一万二、七八七mで、進捗率は九、三八四m、七四・六％となっている。中央道の側道は笛吹市道に移管されており、境川〜一宮まで約一〇キロ、幅員四mと六mの

区間がある。交差する河川に橋梁が整備されていないため、連絡道路としての機能が悪い。この道路は笛吹左岸の連絡幹線道であり、都市基盤づくりの幹線として整備を検討していく。

問 芦川の地域課題に どう対処するのか

内藤議員 人口減が続く芦川地区の過疎対策は。

小・中学校の存続は。過疎対策と区域外通学等の継続は生かさないか。

五〇軒あるという空き家対策は。

観光とすずらん祭りの拠点として芦川「道の駅」建設は。

答 環境条例 道の駅も検討

荻野市長 旧芦川村の過疎計画を引継ぎ、市としての計画策定を進めている。

芦川地域審議会に景観保全対策について諮問し、条例の制定を含めて検討していきたい。

茅葺き家屋所有者へのアンケートなど情報を蓄積し、総務省のモデル指定を受けた交流居住定住促進の事業を活用して、空き家の活用を進めていきたい。

若彦路の開通により、観光ルートとして交通量の増加も予測

されるので、県の力も借りて、道の駅の基本的な計画に積極的に取り組みたい。

芦原教育長 市内の小・中学生すべてに、平等な取り扱いをすることが基本方針である。芦川小・中学校については、十九年度中に状況を深く精査して運営方針を固め、二十年度から新たな方針に基づいて、教育を行う方針である。

問 市のセキュリティ対策は

内藤議員 個人情報的大量漏洩が報じられており、市の業務も電子化された部分が多いが、漏洩防止のためのセキュリティ対策はどうか。

答 セキュリティポリシーに基づき厳正に

荻野市長 情報の漏洩を防ぐため、懲戒規定を含むセキュリティポリシーを策定している。許可されたものだけが情報にアクセスできる「機密性」、処理方法の「完全性」、許可された利用者が、必要なときに必要な情報にアクセスできる「可用性」の三つを目標に技術面、倫理面、物理的な面の対策を講じている。全職員を対象にセキュリティ研修を実施している。



公明党

渡辺清美 議員

問 有事の場合の住民保護計画は

渡辺清美議員 国民保護法に基づき、自治体としては住民の退避や被災者救済など、住民の安全確保対策を担うことになるが、国および公共機関、放送、電気など公益事業法人との連携が必要となる。本市の国民保護計画についての考えはどうか。

答 来年三月目途に計画を策定へ

荻野市長 今年三月、県が策定した市町村国民保護計画の基準に基づき、七月に市の国民保護協議会を設立、来年三月を目標に国民保護計画の策定に入っている。

問 企業の協賛などによる子育て支援策は

渡辺議員 地域の企業などの協賛により、買物や施設を利用する時に、料金割引や特典が受けられるサービスを提供する自治体が増えている。子育て中の家

庭の経済的負担軽減を、社会全体で応援するこの事業について、市長の考えはどうか。

答 県の子育て応援カード事業を推進

荻野市長 山梨県では十月一日から「やまなし子育て応援カード事業」の開始に向けて準備している。これは県と市町村が協働して行う事業であり、十八歳未満の子供三人以上を持つ世帯に応援カードを交付し、これを提示することにより、事業に協賛する店舗や施設が提供する特典が受けられるものである。市としては事業の趣旨を住民に周知し、申請に基づき応援カードを交付するが、事業が定着するよう取り組みたい。利用状況を見ながら、市独自の取り組みも検討したい。

問 「任期付短期間勤務職員」新制度の活用は

渡辺議員 法改正により、一般職の任期付職員の任用の幅が広がり、文化人や芸術家の採用が、首長の判断で可能となった。この制度を活用して地域の文化、芸術の振興を考えると考えるが、市長の考えはどうか。

答 制度の有効活用を検討したい

荻野市長 市役所の公務の中では、育成することの難しい専門性や知識経験を、外部から確保することも住民サービス向上には有効な手段であり、今後条例



市内図書館ではおはなし会を独自に行なっている

制定も考え、必要に応じて高度な専門知識や技術を有する人材を、任期付職員として採用することを検討していきたい。

問 文字・活字文化の振興を

渡辺議員 公明党が推進した文字・活字文化振興法が成立した。国民の活字離れや、若者の読解力低下が背景にある。読書離れや活字文化の衰退は、健全な社会の危機にもつながる。国は学校図書館整備五カ年計画を立て、毎年一三〇億円を交付税で措置している。より良い読書環境の構築が必要だが、所見を伺う。

読書指導で 着実な成果

荻原教育長 本市では芦川を除く全校に、学校図書館司書を配置し、年間読書指導計画に基づいて、「朝の読書」活動を実施しており、その効果として、落ち着きが出て授業に集中できる

ようになった、読書習慣が付き、読む能力、想像力や表現力、思考力の向上が報告されている。図書貸し出し数も、子供一人年七〇冊から一〇〇冊に伸び、二〇〇冊という例もあり、着実に読書指導が定着している。今後は市立図書館との連携を密にし、読書環境をさらに充実させていきたい。



日本共産党市議員

亀山和子 議員

問 「市場化テスト」導入しない事を求める 窓口業務の民間委託で市民のプライバシーは？

亀山和子議員 公共の業務を民間業者に官民競争入札で委託する、いわゆる「市場化テスト法」が成立し、国の事業では国民年金保険料の徴収など九事業が、地方自治体では戸籍謄本、納税証明、外国人登録、住民票、印鑑登録など六つの窓口業務が対象となる。公共性が高いこれらの事業を、民間業者に委ねることとは、住民のプライバシー侵害、個人情報漏洩の危険が大きく、導入しないことを求める。制度を導入するかどうかは選択できるのか。

答 導入は自主的判断で 検討したい

荻野市長 官が独占してきた公共サービスを、官と民が対等な立場で競争入札に参加し、価格と質の面で優れた者が担うというのが法の趣旨である。自治体の窓口六業務を民間が行う場合も、証明書の交付請求と引き渡し、すなわち取り次ぎ業務に限定され、台帳との照合、確認、証明書の作成は職員が担当する

問 合併二年、笛吹市政 の検証は

亀山議員 合併二周年にあたり、わが党は市民アンケートを実施した。ゴミ収集減量化、交通安全、防犯対策、保育所の充実などには評価が高く、交通対策、障害者・高齢者福祉や介護事業などには評価が低く、マイナスイメージの強い回答も寄せられた。本庁一極集中でなく、支所の充実を望む声も強かった。当局としては、この二年間をどう検証し評価するか。今後の課題は何か。市民の目線に立った検証のため、市民の意向調査をする考えはあるか。

答 おおむね成果は 得られている

荻野市長 新市建設計画に基づく六体系三三の施策に取り組みしており、短期間で成果が出るもの、中長期的に及ぶものがあるが、全体的には計画どおり進行している。行政評価や調査は実



笛政クラブ

上野 稔 議員

問 十七年度決算状況と 今後の財政課題は

上野稔議員 市の十七年度決算について、歳入の状況、歳出の事業目的別の執行状況、性質別支出の状況、財政力指数、決算の分析と特徴は。また芦川の合併に伴う課題、消防署の市直轄など、新たな取り組みもふくめ、今後の財政運営の課題と見通しは。

答 財政力指数は やや改善

荻野市長 十七年度の一般会計決算は、実質収支二億五〇〇

施していないが、これまでいただいた市民のご意見を総合的に判断すると、おおむね成果は得られていると感じている。十九年度までに事業評価制度を導入し、それ以降には施策を見直す、施策評価の導入を検討していきたい。

万円の黒字となった。歳入全体ではマイナス一四・九%減、市税は現年度分九四・八%、滞納分を含めると七七・六%だが、収納額は一億一千万円の増。交付税は六億七千万円増だが、国の支出金は一〇億三千万円と大幅減、市債は五億九千万円の減である。歳出は全体的にはマイナス四〇億五千万円、一三%減だが、民生費は七億一〇〇万円、一%の増額となっている。人件費は一・六%減だが、扶助費は三七%増え、義務的経費は

七・一%の増となった。投資的経費は施設建設の終了により六一%減となった。経常収支比率は八二・六%、公債費比率は一五・六%、財政力指数は〇・五九で前年より微増となった。芦川の合併に伴う課題は、まずテレビ、携帯電話、インターネット、防災無線など通信基盤の整備が必要。消防の市直轄に伴い、市のコンピュータサーバーを消防署に移転する方向。財政の見直しは厳しく、行財政改革プランに基づき、コスト削減に努めていくが、基金の繰入れは避けられない。



市の玄関「石和温泉駅」

問 旧峡東病院建物の活用策は
分庁舎方式の弊害と組織の一元化は

上野議員 旧峡東病院建物の、具体的な活用策について検討の結果と、今後の方向は。市役所の分庁舎方式に弊害はないのか。組織の一元化を考えるならその必要性について、具体的な整備計画、予算、費用対効果など今後の方針を示してほしい。

答 旧病院施設を活用し
本庁舎に機能集中を計画

荻野市長 病院建物周辺は、来庁者の駐車場に利用したい。二

階以上は、現在八代分庁舎にある教育委員会、建設部、春日居分庁舎にある公営企業部、保健福祉部の一部、会議室として利用を検討している。職員数は一二〇人程度を見込んでいる。

本来自政執行は、一施設に機能を集中する必要がある。災害等有事の場合は指揮、命令系統の一元化が求められる。この視点から、旧峡東病院の建物活用を検討している。そのための耐震補強、スペース確保のため改修が必要であり、設計委託料を予算計上した。

問 事務事業・組織機構の見直しは

上野議員 今後の支所や出先機関のあり方をどう考えるか。簡素で効率的な組織機構の再編はどう進めるか。

答 支所の機能充実
本庁組織の見直しを推進

荻野市長 支所は地域住民の利便性に配慮した、サービス提供機関と位置付け、本年度当初に次長級の専任支所長を配置し機能の充実を図った。本庁との連携もよくなり、支所の独自性も発揮されている。本庁組織機構の見直しを進めている。

問 都市再生整備事業の焦点
石和温泉駅改修周辺整備事業の方向は

上野議員 ふれあい文化都市建設には、交通の結節点である石和温泉駅と駅前広場、駅周辺の整備が不可欠である。南口広場の整備は、二十年度にできるのか。老朽化した駅舎の建て替えを先行させ、観光情報の発信拠点とすべきではないか。南北自由通路・北口開発と国道140号との交通結節の考えは。

答 駅舎改築は
二十年度からの予定

荻野市長 駅前広場の土地区画整理事業は、二十年度完成を目標に進めている。駅舎の整備は、今年度都市再生整備計画案を策定し、十九年度に国の承認を得て、二十年度から実施を目指す。南北自由通路・北口関係は駅周辺整備とあわせ、まちづくり交付金を活用しながら進めていきたい。

問 観光連盟に対する方針は

上野議員 市観光連盟は法人化をめざしているが、市長の基本的な考えはどうか。

答 県と事前協議

荻野市長 社団法人笛吹市観光連盟の設立許可を得るため、県との事前協議を始めた。

問 農業共済の現況は

上野議員 農業共済組合への加入状況、掛け金の額、市の助成と、山梨中央農業共済組合との連携はどうか。

答 一〇アールあたり
五〇〇円助成

荻野市長 果樹共済への加入状況は、面積で三一・五%、戸数で三三・九%である。農家負担と同額が国の助成でまかなわれ、市は一〇アールあたり五〇〇円を助成して加入促進を図っている。十八年度の助成額は六三八ヘクタール、三一・九万円。事業は山梨中央農業共済組合が取りまとめであり、果樹、園芸施設、農作物、畑作物、家畜、農機具、建物の各共済がある。

9月
定例議会

市民の声

一般質問

九月定例市議会では、八人の議員が一般質問に立ち、一三項目について市の考えをただしました。この記事は一般質問と答弁を要約したものです。

大久保俊雄議員16
中川秀哉議員17
渡辺正秀議員17
前田初男議員18
山本富貴議員19
前島敏彦議員19
井上一已議員20
新田治江議員21

問 地域の教育力を高める 市の取り組みは

答 あらゆる機会に実施していく



大久保俊雄議員
(笛政クラブ)

大久保俊雄議員 戦後六一年国民の四人に三人が戦後生まれの世代となったが、平和の尊さ、命の大切さを次世代に伝えていくために、市内の小・中学校では、どのような授業や取り組みがなされているのか。

インターネットや携帯電話の普及は、便利な反面、青少年に

有害な情報も垂れ流されて犯罪の温床となり、親の負担が増え、お金の尊さが分かりにくくなる等の弊害も出ている。学校のパソコンを含め、インターネットや携帯電話の活用について、どう指導しているのか。

県内でも児童、生徒の不登校が増えているが、市内の状況と相談体制はどうか。社会全体に学習する意欲、働く意欲の減退が見られるが、学校ではどう指導しているか。

来年度実施の県立高校全県一学区制には生徒、父母、教師ともに戸惑いと不安が広がっているが、どのような対策と準備を

進めているのか。

石和高校と園芸高校の統廃合、総合学科高校の設置は先送りされるようだが、全県一学区制の導入と学校間競争の時代を見据えて、市行政と地元高校が連携して、独自性と魅力ある学校づくりを図ることが、地域の活性化につながると思うが、考えを聞きたい。

高野あけみ教育次長 小・中各校では総合的学習や道徳の時間など、あらゆる機会に平和を守る教育を行っている。学園祭で戦争と平和を題材とした演劇を上演したりすることも、ささやかであっても平和を守る灯となっていると思う。

市の情報指導員による専門的指導や、笛吹警察署生活安全課のネット犯罪の事例による指導を行っているが、家庭での指導

が伴って、はじめて効果が挙がると考えている。

昨年の市内不登校児（年間三〇日以上欠席）は小学校二二人、中学校七六人、計九八人、全体の二％であった。本年度は途中だが小学校二二人、中学校四四人、計五六人で一％にあたる。

スクールカウンセラーを中学校全校配置して、担当教師とともに対策に当たり、八代庁舎内に「ひまわり相談室」を開設、昨年度の相談件数は延べ四〇〇人

訪問を含め一、八〇〇回に上る。担当教師は各高校の最新情報の収集に努め、三者懇談も回数を増やし、きめ細かくしている。自己推薦にも学校相談に乗り、新制度にスムーズに対応していきたい。

高校は県の管轄なので意見は控えるが、かつて高校と市教委と住民が、有害図書自販機撤去運動を展開したことがある。市内の高校から要望があれば、できるかぎりの協力はしたい。



パソコンは便利な道具、使い方をしっかり覚えることも大事

問

自立支援の柱となる地域生活
支援事業への市の取り組みは

答

障害者に不安がないよう
取り組む



中川秀哉議員
(公明党)

中川秀哉議員 障害者自立支援法により、利用者負担の見直しは四月から施行され、十月からの全面施行で、全市町村が障害程度区分に基づき、新たな支給決定の仕組みを実施し、新サービス体系に移行する。通所施設がなくなる危惧を訴える声もあるが、自立支援の柱となる地域生活支援事業について、市の今後の取り組みを伺いたい。

本市には介護相談員派遣等事業があるが、介護保険法の改正により、地域支援事業の中で介護相談員の養成研修事業が創設された。この事業の早期導入について市の取り組みを聞きたい。

内藤運富保健福祉部長 相談事業、支援センター機能強化事業、コミュニケーション支援事

業、移動支援事業などがあり、市町村の事業は増えるが、国の補助は削減される。障害者が不安なく、適切なサービスが受けられるよう、民間事業所への委託も含めて取り組みたい。

市内には介護サービス事業者の数も多く、連絡会議も立ち上げられている。市は相談員養成研修を受講していただけるよう、対象者の選定等の準備を進めた。

問

市の少子化対策
助産費委任払い
制度の導入を

中川議員 出産手当が三万円にアップされたが、現状は高額な分娩費を親がいったん支払い、手当を受け取るまでには一カ月近くかかる。この改善策として、被保険者の事前申請により、市町村が医療機関に直接出産手当を支払う「受領委任払い制度」が十月以降順次導入されるが、市の取り組みを伺う。

公明党が強く推進した、幼保

答

医療機関との調整を
待ち対応したい

堀内正徹市民環境部長 一時的に出産費の支払いが困難な場合には、八割貸付けの制度もある。受領委任払い制度の具体的な進め方は、まだ県にも示されておらず、各医療機関の同意が必要である。国から指針が示された次第、県と医師会の調整を図っていただき、広域的に実施できるよう働きかけたい。調整が整った段階で市として対応していきたい。

意義深い制度であり、本県でも具体的な認定基準を十月までに県条例で決定し、適合する施設を知事が「認定こども園」に認定する。本市も柔軟かつ適切に対応する。

問

児童センターへの
指定管理者制度は凍結を

答

適切な運営と連携で
目的を達成していく



渡辺正秀議員
(日本共産党笛吹市議団)

渡辺正秀議員 指定管理は住民サービスの維持向上と、経費節減が要件だというのが、児童センター、学童保育では、サービスの向上、経費節減が見込めるのか。また、同施設は、先生方保護者、ボランティアなどの協働で支えられており、これを特定の事業者任せにすることは適切なのか。応募事業者の実績は、「民間にできることは民間に」というが、市が直接行うべき事業とは何か、明確な考えを聞きたい。

四つの児童センターの指定管理で人件費六二五万円を削減できるとしているが、試算根拠は、応募団体の中には、その団体に入り意見を出してもらわなければ、責任はもてない。あるいは

は残業代は出せないなどと言っているようだが、労働基準法に反する行為とも思える言動だが、市は関与しないのか。

内藤福祉保健部長 指定管理者のもとでも保護者、ボランティアなどには、これまで同様の支援を期待している。保護者などの要望に柔軟に対応し、サービス向上を図る。厚生員や指導員配置の効率化と本庁、支所職員の事務量減により、長期的には経費節減が期待できる。応募二団体の実績等は審査中なので公表しないが、選定審査の経過はホームページで公開する。すでに境川児童館、学童保育室で実施している。指定管理となっても市立に変わりはなく、事務事業の評価、連携の中でしっかり運営していく。

NPOの動きはあったように聞く。しかし内容等についてはNPOが考えるべきのものであると考えるが、行き過ぎた行爲がないよう市として指導はしていく。

市民の声

一般質問



岡部敏朗福祉事務所長

指定

管理者が効率的な運営を行い、職員数の削減が行なえるとするならば、想定した金額に近い削減が出来るのではないかと試算する。

交通弱者の

足の確保図れ

問 渡辺議員 市営バスアンケートから一年経ったが、その結果に基づき、住民の移動手段の確保対策はどうか。市が現在行っている事業と財政支援の状況を聞きたい。

答 アンケートの回答では、現在のバス路線が利用できない場所や、時間帯を補完する手段として、タクシートの利用補助制度の要望が強かったが、民間活力を生かして、交通弱者の足を確保してほしい。

来年度バスの

試験運行をしたい

池田秘書政策室長 アンケート

で、地域による交通格差が明らかになり、本年度は専門家を会長に、高齢者をはじめ、各団体代表によるバス交通研究会を設置、デマンドシステムなど先進事例も研究し、公共交通ネットワークの構築をめざして、今年度中に再編整備計画を策定、

来年度は試験運行をしたい。現在、生活交通路線は民間事業者により一一路線、自主運営が二

路線、市の運行が三路線、計一六路線である。生活交通路線には市から八七八万円を赤字補填している。自主運営バスには一、一四四万円、市営バスは一、七九二万円を支出している。

タクシード利用補助は、合併前に旧境川村で実施していたが、合併時に廃止されている。全市で高齢者と障害者を対象に、この制度を実施した場合、約六千万円が必要となる。福祉の要素も強いので今後検討したい。



一宮地内を走る市営バス

市民の声 一般質問

問 遊休農地対策を問う

答 遊休農地を環境・景観的に活用していきたい



前田初男議員 (新和会)

前田初男議員 農家の高齢化、後継者の他産業への流出等で、笛吹市には一六〇ヘクタール以上の遊休農地が存在する。農用地利用集積等で、農地の貸借を行っているが、まだまだ遊休農地が各地で見られる。特に住宅地では、薬剤散布等でトラブルが発生する恐れがあるため、借り手が無いことが考えられます。

農用地利用集積では、一〇アール以上の耕作を必要としているが、市で行っている市民農園とは別に、土地所有者が個人的に家庭菜園に貸すなどの施策を講ずる考えはあるか。

荒廃している山付きの遊休農地対策として、鳥獣害対策のため、どんぐり等の実のなる木を植林する考えは。

遊休農地対策のひとつとして、

草花等の種まきや花植えで、景観美化を推進していく考えはあるか。

保坂利定産業経済部長 県内多数の果樹地帯を誇る「桃・ぶどう」日本一の郷「笛吹市の農業を、将来にわたり維持発展させるためには、さまざまな課題解消が必要だ。遊休農地対策の必要性は、本市農業の根幹を揺るがしかねなく、効率的・効果的な対応が重要である。

これまで、地方公共団体や、JAの農園開設を対象としていた特定農地貸付法が、昨年九月に改正され、個人による農園の開設が可能となった。同法に対応した活用マニュアルを作成するなど、地域や関係者のニーズに添った活用が図られるよう、啓発活動を行っていく。

広葉樹を主体とした植林は、農地への復旧が難しい山間地の対策



遊休農地活用策の一環として行なわれている市民農園（御坂地内）

問 平等川の改修計画
県からの回答は

答 本年度までに
設計関係業務が終了



山本富貴議員
(笛政クラブ)

山本富貴議員 春日居地域審議会において、平等川の河川改修の質問が地元委員より出された。平等川は、石和町の鍛冶屋橋付近まで改修工事が終了しているが、一〇年以上前に用地買収された春日居町分は、河川法の改正や、設計の変更とかで延び延びになっている。

事業削減の中で、十年前前から土地を提供している方たちのごとを考えると、今後の改修工事の見通しは、地元として切実なものがある。工事着工の見込みはいかがか。
芦沢憲一郎建設部長 本年三月、石和建設事務所にて、平等川改修工事の早期整備について、陳情

区役員、地元県議、市建設部幹部職員が、県に対し陳情しているが、その後、県から何らかの回答は寄せられているのか。
現在、大幅な公共



改修工事の早期着工が望まれる平等川

を行った。その後、峡東建設事務所より、次の回答をいただいた。
平成十五年度に鍛冶屋橋から下流の改修工事が完成。その後、平成十六年度に鍛冶屋橋から笈形橋までの、延長九二〇メートルの概略設計を実施、概略設計審査も終了して、平成十七年度には詳細設計を実施した。本年度については、改修計画区間に架設されている橋梁の詳細設計を実施して、本年度で設計関係の業務はおおむね終了することになる。

河川法の改正に伴い、事業計画の見直しを迫られ、計画変更手続き等により、工事着工が当初の計画より延期となっていたが、平成十九年度から工事に着手するとの回答をいただいた。河川改修は莫大な予算が必要で、鍛冶屋橋から笈形橋までの改修には約一〇億円、一〇年の歳月を要する大事業だ。しかし、河川改修は住民が安心して生活するために必要不可欠であり、市としても事業が早期に完了できるように、県に対し要請していきたい。

問 市民センター建設への
取り組みは

答 市民の皆様の声を聞き
調整する



前島敏彦議員
(笛政クラブ)

前島敏彦議員 合併後、笛吹市全体にかかるイベントの開催が旧町村の域を脱していない感があり、市内に一堂に開催できる施設がないことから、市民の一体感が醸成されていない。こうした旧町村の枠組みを超え、市民が交流できる市民センターの建設に取り組むべきだ。市として検討委員会などを設置し、検討を進めるべきと考えるが、市としての考えは。

の面からも、イベントの企画に支障をきたしている状況でもある。合併協議の中で策定されている「新笛吹市基本計画」において、市の魅力を売り込み、多様な交流や宿泊需要の創出による観光産業の振興を図るためのコンベンションセンターの誘致と生涯学習活動や文化活動を推進するための、生涯学習の拠点施設の整備を、主な施策・事業として計画している。

池田秘書政策室長 合併後、屋内で開催する各種イベントについては、スコレーセンターや桃の里ふれあい文化館を中心に開催しているが、いずれも収容規模が四〇〇人以下で、大きなイベントを開催することができない状況だ。また、観光産業振興

平成十九年度を目標に現在進めている「笛吹市総合計画」の策定に向け検討する中で、市民の皆様の声を聞きながら、調整していきたいと考えている。

問 子育てに市独自の
助成を

前島議員 笛吹市では、平成十七年一月から六月までの出生が二八八人、平成十八年一月から六月までの出生は三三六人で、前年同期を四八人上回っており、非常に喜ばしいことだ。そこで

少子化対策の一環として、子育てしやすい環境づくりをするのが重要で、子育て支援が少子化への対応にもつながる。

エンゼルプランや、市でも次世代育成支援行動計画を策定し、さまざまな取り組みがされているが、計画づくりのための計画でなく、市独自の子育て支援の施策、子育て中の家庭への経済的支援として、ミルクや紙おむつへの助成事業の創設を望むが、市としての考えは。

答 総合的に検討し支援する

内藤保健福祉部長 少子化が進行する中、行政や地域が連携し、子育て家庭を応援、経済的負担を軽減し、子育てしやすい環境づくりが必要だ。市では平成十七年度に「笛吹市次世代育成支援行動計画」を策定し、子育ての負担感や不安感の軽減を図る取り組みとして、地域子育て支援センターの整備・促進、地域子育てサポーターの養成など、子育てに関する相談・助言・情報の提供を通じ、地域全体で子育てを支える体制づくりを計画的に進めている。

今後、経済的負担を減らすため、総合的に検討しながら、少子化対策、子育て支援に取り組んでいく。

問 観光振興、市の取り組みは

答 積極的に事業展開していく



井上一已議員 (清新会)

井上一已議員 市は「甲斐の国 千年の都 笛吹市」というキャッチフレーズを掲げている。

笛吹市をアピールする素晴らしい言葉だが、市の言う「千年の都」とはどのような意味か。また、その言葉の根拠は。

NHK大河ドラマ「風林火山」が来年放映されるが、放映による経済効果は、約三五〇億円といわれている。県では大型キャンペーンを計画、観光名所の掘り起こしを進め、甲州市でも風林火山の軍旗を再現したのぼりを作成し、公共施設などに飾ってPRしている。笛吹市にも武田家ゆかりの文化遺産があるが、「風林火山」の放映に合わせ、市が独自に市内の武田家ゆかりの地を積極的に紹介・宣伝する考えはあるか。

北杜市では、戦国軍師ゆかりの地めぐり「勘助ウオーク」を計画し、特産品販売、施設整備イベント開催等、さまざまな企画を考えている。本市も武田家ゆかりの文化財や、市内の他の文化財を結び散策コース、周遊コース等を整備し、市の観光振興に活用する考えはあるか。

北杜市では、戦国軍師ゆかりの地めぐり「勘助ウオーク」を計画し、特産品販売、施設整備イベント開催等、さまざまな企画を考えている。本市も武田家ゆかりの文化財や、市内の他の文化財を結び散策コース、周遊コース等を整備し、市の観光振興に活用する考えはあるか。



渋滞緩和策がとられた 笛吹橋東詰交差点

保坂産業経済部長 甲斐国千年の都」の意味と根拠については、古墳時代の甲斐の国成立期から、奈良・平安時代を経て、武田氏の館が一五九九年に甲府に移転されるまでの、約千年間を示している。

市内には、武田家ゆかりの史跡が神社仏閣を中心に点在している。これらは県に報告してあり、今後全国に広く紹介される。来年は来訪者の増加が予想され、市民の皆様がガイド役となって観光客をお迎えしていただくのが、最も効果的なおもてなしとなる。今後、市観光連盟と連携し、各種研修会を計画する。

史跡を周遊し、本市を紹介することは非常に効果的だ。市内周遊観光バス事業のコースに入れることは可能で、協議したい。また、峡東三市と県のタイアップ事業として、笛吹市を宿泊拠点、各駅や武田史跡をめぐる周遊バスを来年運行するよう、事業計画を検討していく。

問 笛吹川でのイベントの安全対策と川の美化は

井上議員 笛吹川を利用してイベントが開催されている。特に花火大会は、一〇万人を超える見物客が、夜狭い場所に集まる一大イベントだが、見物客が利

用する必要な施設・設備の整備緊急事態発生時の安全対策は万全か。

トイレの数と設置場所はイベント会場内の道路の確保

救急医療・誘導係の配置は指揮命令系統の一本化・明確化は

警察・安協への協力依頼等 笛吹川は、笛吹市の玄関口であり、顔である。また、笛吹市の母なる川である。この笛吹川の美化と笛吹橋、鶴飼橋の渋滞解消について、市の取り組みと今後の見通しについて伺う。

答 安全確保に万全を期している

保坂産業経済部長 トイレの数と設置場所は、市役所、旧峡東病院、河川内等八力所に、合計九二基の架設トイレを設置。舗装整備されているサイクリングロード、歩道および露天商の店先に確保しているが、観客が道路の上まで座っている。呼びかけにより、移動をお願いしている。

保健師二名による救護所を、警備本部横に設置、笛吹消防本部の救急車両も会場に待機し、迅速な搬送体制をとっている。会場内の大会本部・警備本部

テントには、役員・事務局が待機し、会場内の整理、各部署との連絡調整を行って対応。

毎年早い時期から、交通規制・開催当日の対応について協議を重ね、ご指導いただく中、安全確保に万全を尽くしている。

芦沢建設部長 本庁舎前の一部区間はふれあいゾーンとして市民に快適な自然を体験できるよう、年間を通して維持管理し、危険想定区域は国土交通省と連携、定期的な合同巡視を実施しており、笛吹川出張所における監視パトロールも平日実施されている。美化整備については、国交省に、美化促進を再三要請してきた。

笛吹橋の渋滞緩和策として、一宮方面からの信号サイクルの延長や、笛吹橋東詰めから一宮御坂インターに通じる「県道一宮山梨線改良工事計画」が平成二十一年度には完成予定で、近い将来には解消する見込み。

問 河川の氾濫に対する市の対応は

答 速やかな補強工事
危険箇所を整備



新田治江議員
(清新会)

新田治江議員 温暖化の影響が、河川に雑木・雑草が異常に繁茂し、集中豪雨も多発している。河川が正常な役割を果たし、被害を軽減するため、氾濫の危険に対して市の対応を伺う。

水防法にもある水防活動、河川等の巡視計画は、

草、雑木対策は、

広報や環境ニュースにも載っているが、河川のポイ捨て対策、空き缶散乱防止思想の普及、啓発施策の推進は、

芦沢建設部長 笛吹市水防計画に基づき、水害発生時に必要となる水防技術の習得と、水防団員（消防団員）の水害に対応する理解と意識の高揚を図るため、市独自に水防訓練を行っている。また、市内の一級河川に

ついでには、河川管理者の峡東建設事務所、二名の職員が平日巡視を行い、市職員も、河川監視、河川管理施設の安全性について点検、危険箇所については、河川管理者への報告や対策の協議を行い、補強工事等、適切な処置を講じている。

多くの河川にヨシや柳などの雑木が繁茂し、土砂の堆積や洪水の流下障害が心配される。自治会よりの除草・伐採の要望箇所は対応しているが、費用的に全河川の伐採ができないため、緊急性の高いものから実施している。

堀内市民環境部長 雑草の除去などの清掃活動、不法投棄禁止看板の設置で、不法投棄しにくい環境を整備することも対応策と考える。現在、不法投棄物の撤去作業や、不法投棄監視パトロールなどを実施している。また、補助金を活用してのフェンス設置について、積極的に取り組んでいきたい。

雑草が繁茂する河川(間門川)



問 下水道事業の進捗状況は

新田議員 合併後、下水道事業がどのように推進したか、進捗状況を伺う。

下水道事業の普及率は、

市内への排水設備の進捗状況は指定業者の施工は守られているが、チェック体制、推進方法は、受益者負担金の徴収率は、水洗便所等改善資金融資制度の利用状況は、

答 現在五〇%の普及率

斉藤宏公営企業部長 合併時の普及率は四二・六%、十八年度当初は五〇%となり、七・四ポイント上昇した。県平均より一・五ポイント上回っている。

本年八月末までに新たに九二八世帯が接続。現在、指定業者は三〇一店が登録されている。指定店には責任技術者がおり、完成時には市職員が適正に施工されているか検査を行っている。また、推進方法については、説明会等において宅内水洗化工事内容の説明や、加入促進の依頼を行い、市広報、イベントなどを活用した広報活動を行っている。

平成十七年度の受益者負担金徴収率は八九・六%だが、一括納付報奨金が適用され、収納率に反映している。しかし、過年度分負担金の徴収が悪く、負担金制度の理解を進める努力をし、滞納額を減らしていきたい。

斡旋制度では、五〇万円まで融資を受けられ、借入金利は市が負担する。現在の年間利用件数は平成十七年度一〇件、十八年度六件の活用で、制度活用推進に努力したい。

総務 常任委員会

平成十八年第三回定例会において、付託された条例の一部改正二件、規約の変更等三件、十八年度補正予算、十七年度決算審査を九月十四日、十五日、二十一日、二十二日に行いました。

おもな質疑

Q 職員研修の内容ならびに昇任昇格試験の受験者は。
A 昇任昇格試験は八〇名受験。研修は専門研修、接遇研修、人事評価、行政評価、メンタルヘルス研修を行った。
Q 使いきり予算をなくす方向だが、職員の対応や不要額の扱いは。

A 周知が徹底していないところもあった。新規事業等において出た残額等は、基金に積み立てた。

Q 石和文化スポーツ財団を市の財団とする計画は。
A 理事会の中で方向性を検討していく。

Q 総務委託料二千八百万円の内訳は。
A 旧峡東病院跡地利用設計費二千万円、耐震診断六百万円、測量費他である。

Q 入札にかかわる業者選定で暴力団がかかわる業者や関係する業者、NPO団体の審査は。
A 警察から情報があった場合、指名から排除する。NPOは有資格者に登録がない。今後に向け審査要領を作成し、業者の格付け、指名停止業者の公表も行っていく。

Q 土地利用審議会の開催状況は。
A 審議会は一ヘクタール以上の開発の申請が上がったときに開催している。これまでに数回開催した。

Q 支所の予算にばらつきがあるが。
A 支所費は施設の管理費であり、建物の違いで生じてくる。石和は一般管理費で処置。

Q 消防団の統廃合は。
A 御坂、一宮、境川が対象。区長会と協議していく。

Q 税の徴収率の目標は。
A 平成十七年度徴収率は七七・六%、目標は八八%。

Q 入湯税の滞納理由は。
A 廃業や、申告したが納めていないものなどである。

Q 県内外からの研修で、来庁者に本市特産の桃、ブドウを出してPRをする気はないか。
A 予算編成において、茶菓子代等の計上を控えるよう指導があった。特産物の宣伝になると思われるので、提供できるように創意工夫を行なう。

Q 市の所有する公用車は。
A 九月現在で、一般車両一九二台、合併後二五台を廃車した。

Q 決算認定については、反対討論があり、他の案件については、全員賛成で可決しました。

平成十七年度決算

教育厚生 常任委員会

本委員会に付託された議案審査を九月十四日、十五日、二十一日、二十二日、二十五日の五日間委員会を開き、全委員出席のもと、関係当局の出席を求め審議しました。

おもな質疑

Q 市民環境部所管
Q 国民健康保険条例の一部改正で、七〇歳以上で現役並みの所得とは。また、それにより三割負担となる人はどのくらいか。
A 現役並み所得は、課税所得で一四五万円以上であり、サラリーマンの月収では、二十八万円以上。三割負担の該当者は約八〇人（前期高齢者）ほどである。
Q 青木が原衛生組合の現状と今後は。
A 現在、春日居町、境川町のし尿を処理している。施設が老朽化している。市の施設への搬入も考えたが、こちらも老朽化しているため、今後広域化も含

めた中で、検討する必要がある。保健福祉部所管

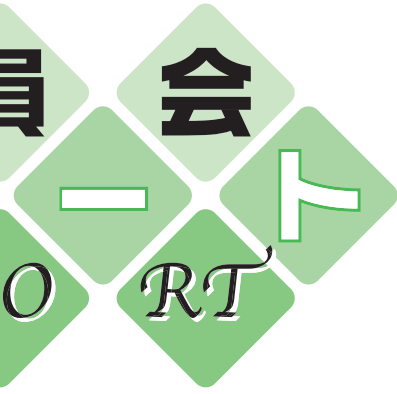
Q 保育所条例の一部改正に伴う指定管理者導入で、石和第三保育所の保護者との合意は。
A 保護者臨時総会で、大多数の賛成で、指定管理者導入について決定していただいた。内定者は、今後保護者との話し合いの中で、特色ある保育を行っていくとのことである。

Q 健康診断受診率向上のため、地区公民館などでの実施は。
A 検診事業が始まった当時は、公民館などで行っていたこともある。現在は検診項目や検診車両も増えるなど、対応ができない状況だが、受診率向上のための努力は行う。

教育委員会所管

Q 県立博物館周辺を散策するグループを見かける。市内には多数の文化財等があるが、これらの文化財や史跡の展示スペース確保は。
A 御坂地区にある文化財等の展示個所は、現段階では難しい。今後空き施設等の利用を考える。

Q 図書館を借りる人のモラルが低下している。市としてどのように対応しているか。
A 年間一、五〇〇冊以上廃棄処分しているが、本に手が加え





に確認し、ひどいものは、弁償してもらっている。モラル向上は、子どもたちには学校の司書が、一般では貸出の際に指導しているが、徹底は難しい。

建設経済 常任委員会

九月十四日に、付託を受けた平成十七年度決算を含め、三五件の案件について審査を行いました。審査の主な内容は次の通りです。

おもな質疑

産業経済部所管

Q 遊休農地活用の事業内容は、
A 農地管理を行った後、認定農業者および担い手農業者等への貸し出し斡旋等を、農業委員

会と連携して行う。

Q 鳥獣害対策補助の対象は、

A 一部地域にイノシシの捕獲に対する報償費を支給。今後市全体に拡充を図る。対象は成獣となったイノシシに限定する。

Q 観光連盟を法人化するようだが、メリットは、

A 合併当初、笛吹市観光協会として立ち上げができなかった。連盟として各種観光事業を主体で行えるメリットがある。現在法人化の設立に向け事務を進めているが、十九年度は難しい。

建設部所管

Q 公営住宅の耐震補強工事の現状は。また、市営住宅の空き室解消対策は、

A 住宅の耐震は、これから調査・補強工事をする。空き室は情報を公開し受付を随時行う。

Q 市営住宅の家賃滞納に対する市の対応は、

A 滞納者には既に通知しており、今後保証人に連絡を取り、徴収するよう手続きをする。

Q 各種委託料の契約は随意契約か。

A 委託契約は随意契約もあるが、随意契約のときは、最低二社以上から見積を徴している。

公営企業部所管

Q 市営住宅等への消火栓の設置は、

A 総務課消防担当が行っており、協議をしていく。

Q 各種利用料金未納の取り扱いは、

A 滞納者宅に訪問し、できる限り徴収する。

Q 下水道計画の見直し内容は、

A これまで環境下水道と公共下水道があった。十九年度から一本化するため、見直しをした。

Q 公共施設等への下水道工事の減免等はあるか。神社仏閣等への下水道の負担金は、

A 公的施設等の負担金は減免措置がある。神社仏閣も公共性が高いので、減免措置の対象。

視察研修

建設経済常任委員会



芦川町農業集落排水事業 および簡易水道水源地の視察

委員会では、下水道事業の課題について、芦川町農業集落排水事業の、下水汚水の処理状況を十月十二日に視察しました。

この施設は、平成七年に事業着手、平成十二年完成。町を三地区に分け、それぞれに単独の汚水処理場を設けて処理を行っています。

視察した中芦川施設は、自然流下式の処理方法で、沈殿分離と接触ばき方式。汚泥の処理は年一回くらいで済む。処理人口約五〇〇人、一日平均汚水量一三二立方メートル

視察研修

教育厚生常任委員会

芦川小・中学校を訪問



教育厚生常任委員会では、全員が参加して、10月25日に芦川小・中学校を訪問し、全クラスの授業を参観後、先生方と芦川教育について話し合いをしました。

今回の訪問を通して、小規模校が持つ良さや、課題も直接見聞きすることができました。

と小さな処理施設のため、定期的な保安点検、管理が重要であるとの説明がされました。簡易水道事業も、三地区にそれぞれ配水池を設け、湧水、表流水、深井戸を水源とし、それぞれに供給を行っている。その中の上芦川湧水の水源地視察を行った。今後の市の下水道事業について、十年計画から外れている地域の汚水処理の対応等、合併浄化槽を含めた中での検討が必要だと思います。

芦川支所へも訪問し、事務事業等の状況を地域振興課、住民課より説明を受けました。市内から特に離れている地域のため、住民が不安のない市政にとのお願いもされました。

NHK大河ドラマ「風林火山」が放映されます 笛吹市にも、多くの観光客が訪れるのでは？

笛吹市役所に聞いてみました。

Q NHK大河ドラマ撮影も順調に進んでいると聞いています。
笛吹市にも、武田家ゆかりの名所がたくさんあるはずですか？

A 笛吹市には、武田家ゆかりの史跡が、神社仏閣を中心に点在しています。武田氏の館も、長い間石和に置かれていて、奈良・平安時代を経て、1519年に甲府に移転するまで、甲斐の国の中心が当市にあったこととなりますね。

銚子塚古墳をはじめ、春日居町国府や御坂町国衛の地名、一宮町の甲斐国分寺・国分尼寺などがあり、「甲斐の国 千年の都」にふさわしい環境であったといえます。

Q どうなふうに
観光PRを進めるのですか？

A 武田家ゆかりの史跡などについては、県と一緒に全国的な宣伝を展開する予定です。市の観光連盟とも連携し、笛吹市の知名度アップのためにイベントを企画したり、効果的な宣伝事業、観光ボランティアガイド養成講座など、ソフト事業にも力を入れていきます。

大事なことは、一過性のお祭りで終わらせることなく、市民の皆様がガイド役となって観光客をお迎えし、おもてなしをしていただくことが、最大のPRになるのではないのでしょうか。どうか、よろしくをお願いします。



武田家ゆかりの成就院(石和町)
武田信重の代までの32年間、甲斐守護職の居館として、周囲に防備を施して使用されたといわれる。

みなさん！
アンケート用紙を
ぜひ送ってね！



編集委員会よりお知らせ

笛吹市に関する疑問や聞きたいこと、日ごろ感じていることなどを、ぜひお寄せください。編集委員会では、市民の皆様のご意見を大切に、今後の議会活動に役立てていきたいと思っております。

送り先
笛吹市石和町市部777
笛吹市役所内
笛吹市議会だより編集委員会あて
FAX 262-4115

早いもので、季節はもう師走。この笛吹市議会だよりを、皆さんにお読みいただいているから、二回目の十二月を迎えました。この間、あれこれと試行錯誤しながら、その都度、編集委員会を開催し、より良い広報誌づくりに努めてきましたが、さて、本当に読みやすかったのか、読者の判断が気になるところです。

今回の議会だよりは、十七年度の決算を審議した九月議会のお知らせです。お読みいただいたように、十七年度の一般会計はおよそ二八二億円になりました。この決算、私たち市民の暮らし、福祉、教育の向上に十分役立ったと実感できた決算だったでしょうか。

二八二億円を市民一人ひとりが自分の暮らしに引き寄せて、「市民第一主義」「市民主役」の視点に立って検証し、意見を寄せてくだされば幸いです。

(亀山和子・記)



笛吹市議会だより No.8

〒406-8510山梨県笛吹市石和町市部777
TEL.055-262-4111(代)FAX.055-262-4115
URL:http://www.city.fuefuki.yamanashi.jp/



笛吹市議会だより No.8 24